

遺跡における保存の在り方を考える。多くの地域では遺跡は観光資源として扱われ消費されている。観光による消費と修繕を繰り返す従来の保存は、修繕が間に合わなくなれば限界を迎え朽ちる。そこで里山における自然の保存といった永続性のある保存から遺跡の保存を考えることで単なる原状復帰ではない新たな価値を内包していく在り方を提示する。





00: 背景・目的

戦争遺跡は建設された当時の状態を維持するために保存され、多くの場合レジャー施設として観光資源として利用されている。観光資源としての利用は多数の人を呼び込むが故に遺跡の老朽化を促進し、修繕は必須となる。また、遺跡は現代において歴史を学び、未来を考えていく上で大事な資源であり、修繕が消費に耐えられなくなっている状況が見受けられる。

本研究は猿島要塞を取り上げ、修繕による保存の持続性を問い、遺跡の保存の新たなあり方を考察し、提案するものである。

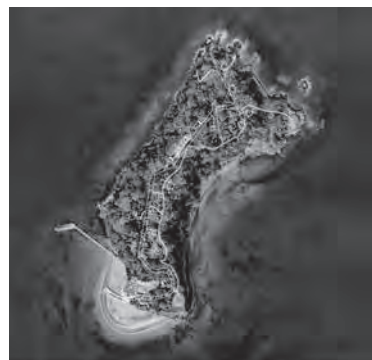
01: 敷地

神奈川県横須賀市 猿島

猿島は三笠公園から船で約10分の距離に位置する自然島である。南北に500m、東西に200mあり、約60分で一周できる。

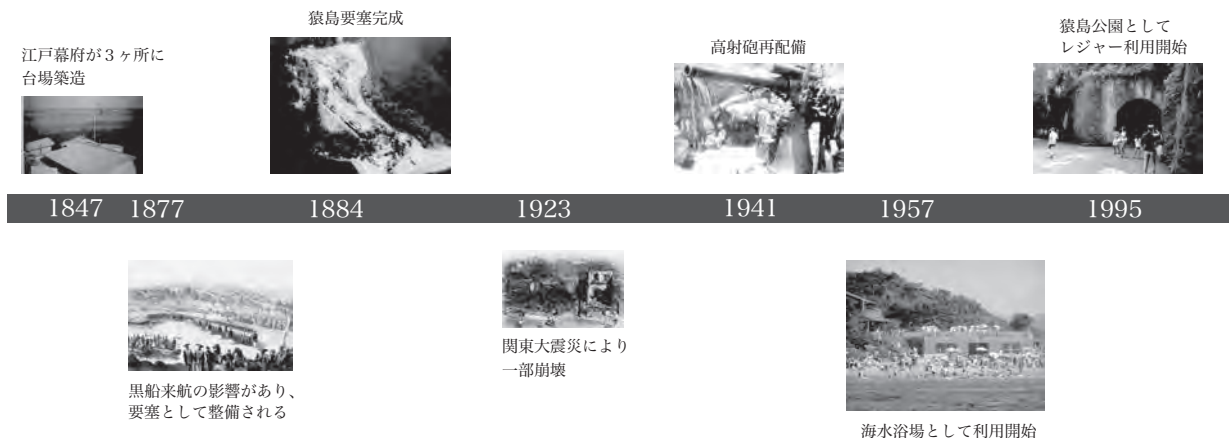
猿島砲台は江戸から昭和にかけて建設された砲台遺構であり、レンガと切石により構築されている。築かれた要塞は戦争で一度も使用されることなかった「無傷の負の遺産」である。

現在は無人島として、年間20万人近くの人々がBBQや観光目的で訪れる。

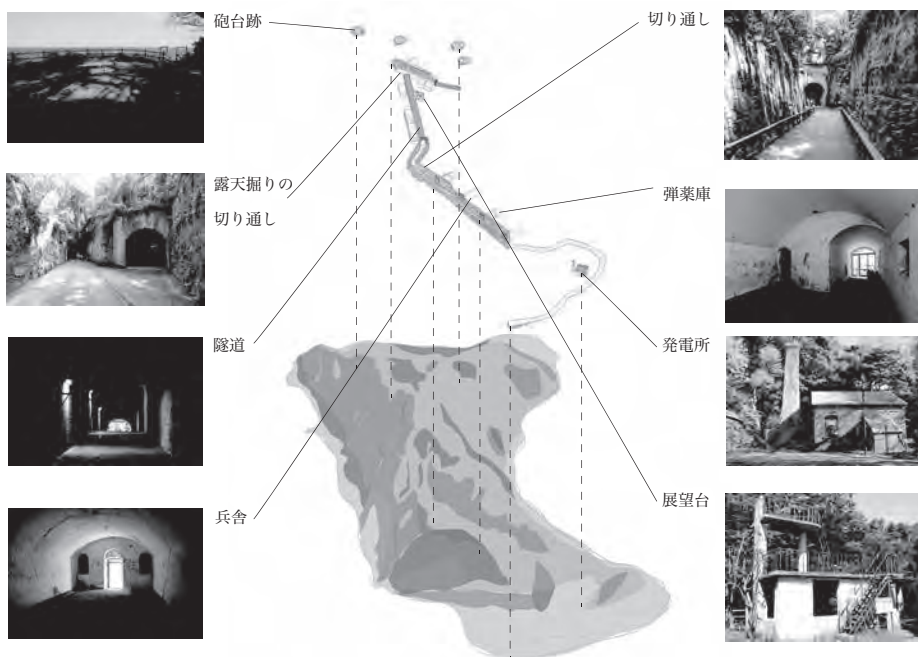


02: 猿島の歴史

猿島は明治時代から戦後まで要塞として改修され続けた。時代の層が積み重なっている。



03: 現存する歴史的構造物



ほとんどの構造物は観光などにより劣化し、立ち入ることができない

04: 遺跡の保存と里山における自然の保存の違い

遺跡における保存



毀損部分は元に戻す・修繕する。
いちごっこのような保存。
有限性がある。

自然における里山的保存



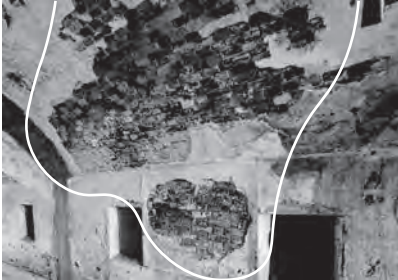
間伐や焼畑など、人の手が加わる事により
生態系や樹木が保存されていく。
永続性がある。

遺跡の保存を里山的保存のように行えないだろうか。

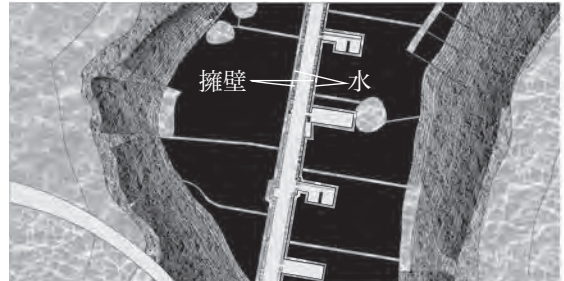
05: 劣化要因と里山的保存

劣化要因

雨水

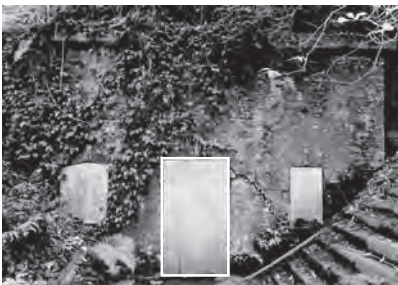


雨水による浸食・塩類風化により劣化が進む。排水がしっかり行う為に水抜き穴を設ける。
池のように溜まったり、川のように流れたり、水抜き
の多様な在り方を考える。



擁壁の裏に溜まる雨水を抜くための水抜き穴を設ける。

人間



観光客による落書きや一部が崩壊していることもあり、
入り口がベニアで塞がれている。
人が介在し、管理していくことで守っていくことはでき
ないだろうか



水抜き穴を拡張するように人の居場所を作る。
遺跡の周囲に人々が過ごし、管理していく。

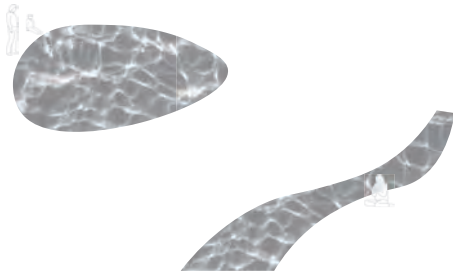
樹木



樹木の根による浸食で劣化が進む。樹木は管理されてお
らず、一部伐採を行う必要がある。
里山のように間伐を行い、遺跡を守っていくことはでき
ないだろうか。



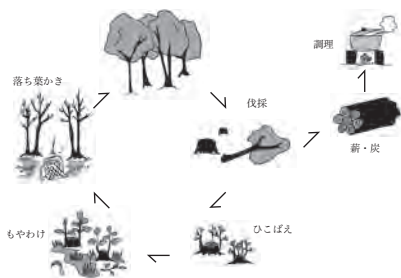
不要な樹木を間伐する。樹木は薪や工房などで用いる。



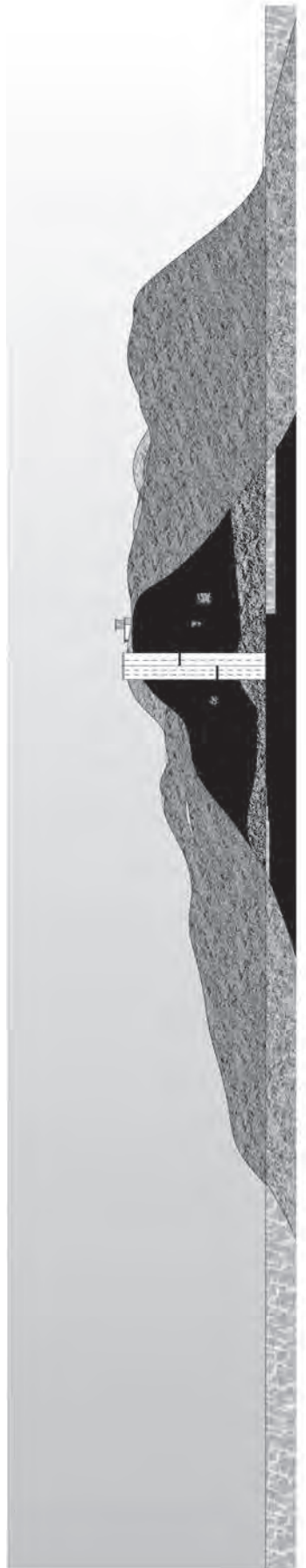
水の周りに集まる



人々が遺跡の周囲に滞在することで遺跡を守る

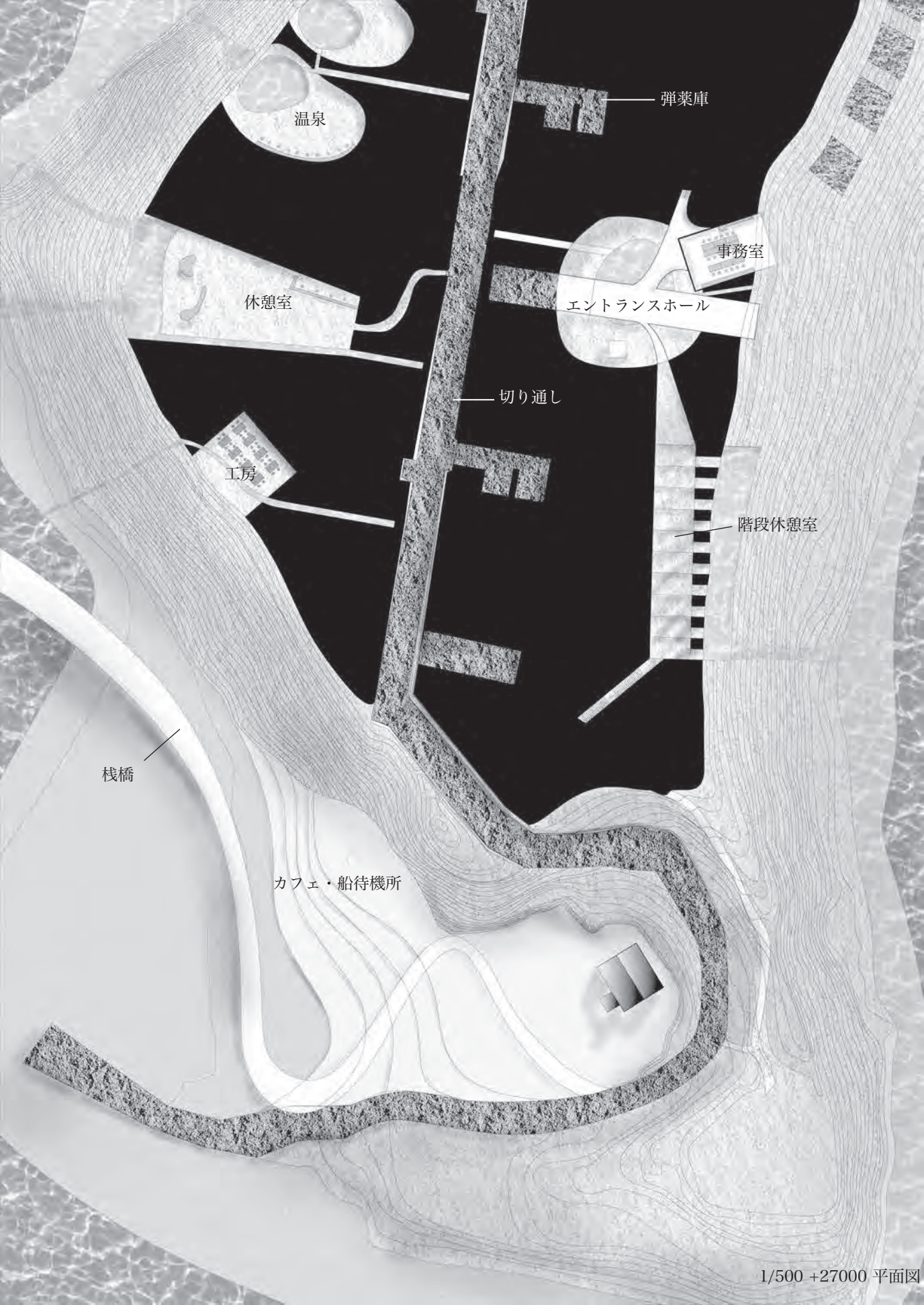


遺跡の保存と資源の循環の両立





既存の既存箇所をエントランスに。過去から未来への入り口。



温泉

弾薬庫

事務室

休憩室

エントランスホール

切り通し

工房

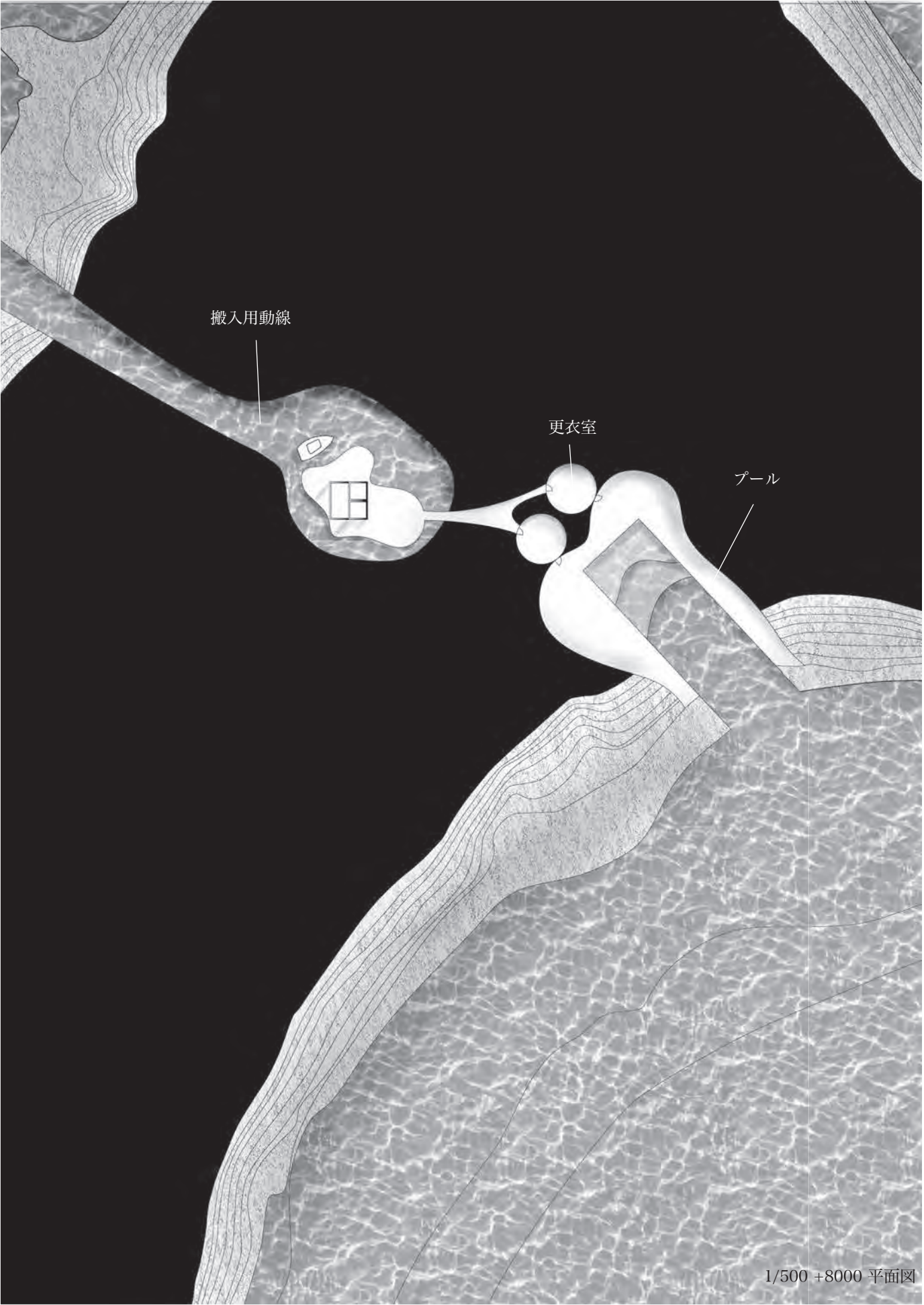
階段休憩室

栈橋

カフェ・船待機所



風化・侵食の激しい切り通しを温室に。



搬入用動線

更衣室

プール

